今の時代に感謝を

Aグループ（佐藤璃香、田﨑駿太、岸川 求、小野田晄凡紗）

私たちは今回広島へ行き、現地の方々からお話を聞くことで「平和」について、もう一度考えてみることにしました。

現地では最初に碑めぐりガイドの平原敦志さんのお話を聞きました。

平原さんは、原爆の爆風で身体が飛ばされたり、熱線で皮膚が焼けてただれていて、熱さや痛みをやわらげようとするため、自ら川へ飛び込む姿があったという様子など、たくさんのことをお話してくれました。

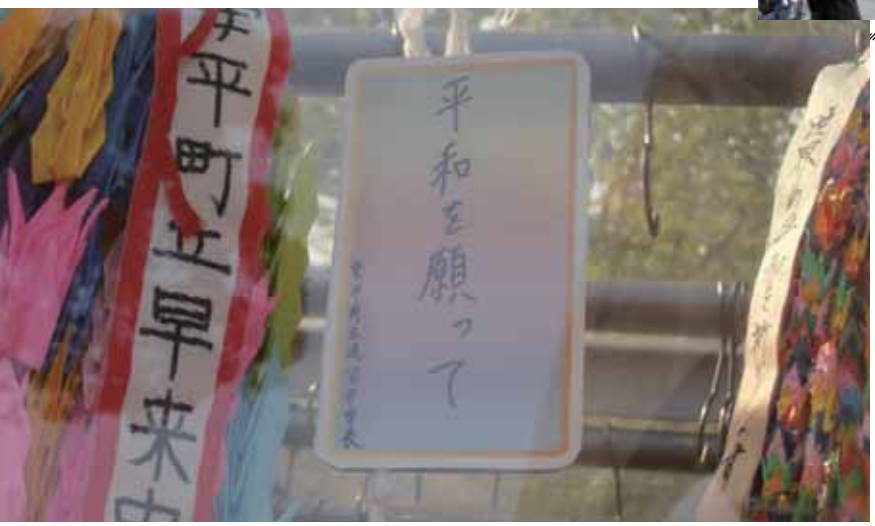
平原さんは戦争や原爆のことなどをお話する時は、いつも悲しい顔をしているように感じました。平原さんのお話の中で、一番印象的だったものは、平原さんのお母さんのお話でした。

平原さんのお母さんは、広島で実際に被爆しており、平原さんのお母さんは原爆が落とされた当時、苦しんでいる人や死体を見捨てて歩いたんだと平原さんは聞いたそうです。

平原さんのお母さんは死んでしまうまで、「私はあの時、人間でなかった。」と言っていた、と教えていただきました。この時の平原さんの表情もこの上なく悲しい表情をしていたように感じました。

そのお話と表情から戦争は、人間の心を人間の心でなくしてしまうようなとてもおそろしく、残酷なもので、二度と起こしてはいけないと強く考えさせられました。そして、もし私達がその場にいたら、平原さんのお母さんと同じようにしてしまうのではと考えると、おそろしくてたまりませんでした。

私達は、今回広島に行き、実際に、見て、聞いて、感じたことをこれからみなさんに伝え、また、大人になっても、伝え続けていきます。



平和と命の大切さについて

Bグループ（髙橋　柚、柳沼奈美、今岡大地、金川兼大）

私たちのテーマは「原爆の悲惨さを学び伝えよう」です。

塩冶節子さんという方の被爆体験談を聞いて、実際にあった出来事を知りました。その出来事が書いてあるのは、塩冶節子さんが書いた、『母の手に助けられて』という本です。この本を広島でもらい安平町に帰ってきてからも何度も読みました。塩冶さんは実際に、どんどん人の命がなくなっていくのを体験されていて、今の自分がそうなったらと想像すると涙がでてきました。みんなにも読んでもらい、塩冶さんの気持ちを想像して、今の生活がどれだけ幸せなことか考えてほしいです。そして戦争や原爆が落とされるということは、人の幸せを一瞬にして奪う大変おそろしいことなのだと言うことを感じてほしいので、このことを私は伝えていきたいです。

広島平和記念式典にはたくさんの外国人がリオオリンピックの開会式には目を向けずに二度と起こしてはならないとの思いで参列しており、今年、原爆が落とされてから71年目にして初めて現役のアメリカ大統領のオバマ大統領が広島を訪問した影響がすごく大きいんだろうと思いました。

これから私たちが平和な世界を保つために私たちが力になれることは、平和な日々を送れている事がどれだけ幸せなことか、命の大切さについて、身近な人はもちろん私たちにかかわる全ての人たちに伝えていく事だと思います。

私たちは今日のこの報告会で伝えたことをこれからの日常生活でもたくさんの人に伝えていきます。